

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	64.5	65	58.5	55	53
	(1.06)	(1.02)	(0.96)	(1.02)	(0.96)
R7 正答率の全国比		0.97		0.94	0.92

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現6年生】

- ・正答率は、国語・算数共に県平均を上回ったものの、全国比については、国語 0.97、算数 0.94 と、全国よりやや低い正答率であった。理科の正答率は県比 0.96・全国比 0.92 とやや下回った。
- ・国語では、書かれていることを具体的にイメージしたり、人物の発言の意図を理解したり、説明の工夫の効果について考えたりすることに課題があった。
- ・算数では、伴って変わる二つの数量の関係に着目する問題と、少数の加法・数の相対的な大きさを意識して共通単位をとらえる問題への正答率が特に低かった。原因としては、「数量の関係」を図や表、文章から正確に読み取る力が十分ではないこと、単位や位の概念を文章題で適用する力が弱いことが考えられる。
- ・理科は、過去に学習した基礎的な知識（電気回路、水の状態変化、金属の性質）の定着が不十分で、実験を通じた体験的な理解が不足していた。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学びの土台となる知識・技能の確実な定着を図るため、反復学習や既習事項の丁寧な振り返りを授業に取り入れる。
- ・基礎・基本をもとに、児童が自らの力で深く考えることを重視した授業づくりを進める。
- ・教師が答えを示すのではなく、児童がじっくりと予想したり、試行錯誤したりする時間を十分に確保し、間違いを恐れない安心感のある雰囲気の中で、粘り強く課題に向き合う態度を育てていく。
- ・特に文章問題においては、最後まで丁寧に読み解く習慣を身に付けられるよう、キーワードに線を引くことを徹底する。
- ・具体物を操作するなどの体験型の学習や復習を重視して、確かな理解につなげていく。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・基礎基本の定着を図るために、計画的に宿題を出し、家庭学習を充実させる。
- ・自主学習への取り組みを促し、自分で考え、学び、理解を深める力を育て、学習習慣や自己管理能力を身に付けさせる。
- ・朝の10分読書を充実させ、文章に触れる機会を多くして、語彙力を増やしたり、文章の理解力を向上させたりする。